

## 会 議 要 旨

会 議 名	令和元年度第3回 館山市地域公共交通会議
開 催 日	令和元年11月28日(水)午後3時~午後4時20分
開 催 場 所	館山市コミュニティセンター 1階展示室
出 席 者	[委 員]合計23名(欠席 7名) 別紙一覧表のとおり [館山市]合計5名(市長・総合政策部長・企画課長・同副課長・同係員) 上記のほか、館山市地域公共交通網形成計画に係る調査業務を受託した、ランドブレイン株式会社の社員が2名出席
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	2名(定員10名)
議 事	【議 事】 (1) 館山市地域公共交通網形成計画素案について(協議事項) 【その他】 ・事業者からの情報提供等
会 議 内 容	<p><b>開会</b> <b>館山市長あいさつ</b> <b>議事</b></p> <p>(1) 館山市地域公共交通網形成計画素案について(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から「資料1-1~1-5」を用い、以下の内容等について説明。素案については、今後微修正を加え、パブリックコメントを実施することについて承認された。</li> <li>「資料1-1」(素案)について、構成や基本方針、考え方等に関して説明。</li> <li>「資料1-2」により、年度末の計画完成に向けたスケジュールを説明。</li> </ul> <p>参考情報として、グリーンスローモビリティに関する先行事例(松戸市、群馬県桐生市)を紹介。「資料1-3、1-4、1-5」</p> <p>欠席の成田委員からいただいた計画素案に関するご意見を紹介。</p> <p>【いただいた意見の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素案の47ページに記載した公共交通に関する課題に「隣接自治体との連携」とあるのに、基本方針に対応する項目がないため、新たに盛り込むべきではないか。</li> <li>・素案の80ページ、「計画推進のための連携・協働体制」について、市民ニーズの把握や検証を館山市単独で行うことになっているが、これについても南房総市と2市で行うことになるのではないか。</li> </ul>

## 【質疑・意見等】

( 轟座長 )

- ・成田委員からの意見と同じになるが、素案 80、81 ページの進行管理のフロー図には、南房総市ないし 2 市合同の協議会のことが入っていたほうが良いのではないか。
- ・素案 2 ページの上位関連計画の計画期間一覧及び 3 ページの上位関連計画の整理欄に、南房総市と合同の公共交通網形成計画があっても良いと考える。

( 室委員 )

- ・公共交通の一番の課題は利便性が悪いことだと思うが、「利便性を向上させる」という言葉が探しても出てこない。
- ・郊外部等、バスが通らないところでバス停までの移動手段をどうするかということは、「地域の実情に合わせた取組」ということで大きな課題の 2 番目などに出てきている。また、市街地の回遊性向上等により便利になるという感じはあるが、それをつなぐものとして、フリー乗車券を導入すると書いてあるが、分かりやすい運賃体系の施策に入り込んでしまっている。乗り継ぐことで行きたいところに行ければ良いと考えれば、フリー乗車券や乗継割引等は利便性向上の一つに入ってくるのではないか。
- ・交通結節点、待つ場所で待てるような集客施設があれば、1 本で行けなくても乗り継ぎながら行きたいところに行けるということを、課題・方針として考えていた。素案 47 ページ、課題の 1 番で、まちづくりや観光振興との連携と書かれているが、施策と連携するのは大きな考え方としては良いが、具体的に言うともちづくりは利便性向上ということになるのではないか。
- ・まちづくりとの整合性ということであれば、館山市役所が今の場所にあるから不便なのではないか。10 年後、市役所を建て直すのであれば、そういうことも含めて考えていくということも書かれていれば良いのではないか。
- ・素案 51 ページの「施策の方向性 3」に南房総市との連携がうたわれているが、「基本方針 2」に広域的に交通システム構築に向けた連携といったことを加えても良いのではないか。
- ・フリー乗車券のことが、素案 51 ページの施策 16「分かりやすい運賃制度の導入」に入っているが、分かりやすいというよりは「使いやすい」ということにつながると思う。観光客も、一日乗車券があればいいのかなと思ったので、観光と絡めた書き方があれば良いと感じた。
- ・全体的な話になるが、素案 50、51 ページを見ると、番号が色々出てきて流れが分かりづらい。施策の方向性は必要か。読む人が混乱しないか。

( 事務局 )

- ・いただいたご意見を持ち帰り、修正も含め検討する。

( 轟座長 )

- ・確かに、利便性の向上ということが全体を通じて見えづらいと考える。個別の施策はそこに向かっているのだと思うが、検討いただきたい。

( 石川委員 )

- ・各施策の実施スケジュール記載箇所において、矢印が実線と点線に分かれているが、何か意味があるのか。

(事務局)

- ・施策の検討や実証実験までを実線に、それ以降の本格運行、時期的にどのようなスケジュールでできるか分からない箇所を点線で記載したが、分かりづらいと考える。記載方法を検討する。

(轟座長)

- ・凡例はあった方が良い。
- ・記載方法を工夫してほしい。

(室委員)

- ・素案 53 ページの循環バス、バス路線見直しについて、実際にやれる前提なのか。
- ・高齢者の外出支援に関連し、文化ホールや老人福祉センター等でのイベント時に見に行きたいけど行けないという高齢者が多数いる。循環バスができればカバーできる部分もあると思うが、どうか。

(事務局)

- ・素案 53 ページのルートについてはまだ案の段階で固まったものではない。今後、立ち寄り先の施設管理者と協議し、バス停を設置するなど、細部を詰めながら最終的なルートや運賃等を決めていくことになる。
- ・老人福祉センター等で日常的にニーズがあれば、ルートに加える、曜日により乗り入れる等の検討を行っていく。
- ・運行に向けては、ニーズの深堀を行い、交通事業者等との協議や地域公共交通会議での審議をさせていただければと考えている。

(室委員)

- ・通院と買物のニーズが高いという点で、53 ページの案が実現すれば利便性が上がると思われる。是非実現させてほしいが、なかなか進まないようであればイベント時の臨時バス運行、市で余っている車両を活用して運行させるなど検討してほしい。このことを、高齢者の外出支援の施策に入れられないか。
- ・素案 78 ページの施策 23「官公庁でのノーマイカーデーの実施」については、もう一歩進めて、館山駅近くの中心市街地で曜日を決めて歩行者天国やトランジットモールの実験ができると、商店街活性化にもなるかと思うがどうか。

(事務局)

- ・アイデアには賛同するが、ハードルが高い部分があると認識している。検討課題とさせていただきたい。

(轟座長)

- ・歩行者天国(トランジットモール)については、可能性を探っていただきたい。
- ・素案 78 ページの施策の 23 については、対象を官公庁職員に限る必要はないと思うが、どうか。

(事務局)

- ・正直なところ、この地域でマイカー以外での通勤が成り立つか不安な部分があり、今回の計画ではまず官公庁の職員からという思いで素案 78 ページのような記述になった。事務局としては官公庁に限らなくても良いと思っているので、内容について検討していく。

( 轟座長 )

- ・実態に関わらず呼びかけをしていく必要はあると思うので、積極的に考えていただきたい。

( 鈴木正一委員 )

- ・素案 47 ページの課題の中では、様々なニーズがある中で、どの需要に焦点を当てて対応していくか、課題になると感じた。
- ・このほど運行を開始した東京池袋のグリーンスローモビリティ「いけバス」のようなものをニーズに合わせてやっていけるかどうか、導入を視野に入れていくことも検討すべきだと思う。ただ走らせるだけでなく、市民の心をひきつける、乗ってみたいと思うような雰囲気づくりが必要と考える。環境面のことも合わせて考えつつ、こういったことを前に進めていく必要があると思うが、そのあたりの考えはどうか。

( 事務局 )

- ・乗ってみたいくなる雰囲気づくりについては、委員の指摘どおり大事と考える。今後検討していきたい。

( 鈴木正一委員 )

- ・「いけバス」では、何台かのバス車両のうち 1 台が黄色の塗装になっており、これを見かけたらラッキーといった仕掛けがある。こういったことも一つの例としてあっても良いのではないか。
- ・素案 49 ページの将来イメージ図の中で、西岬地区等に関しては公共交通空白地対策等の記述が無いが、どうなっているのか。

( 事務局 )

- ・素案 64 ページ、施策 10 にラストワンマイル対策のためのグリーンスローモビリティ導入を盛り込んだ。西岬や神戸については、既存路線バスとつなぐような形でグリーンスローモビリティや福祉カーのようなものを導入し、バス停から離れた集落を移動できるような対応を考えている。

( 鈴木正一委員 )

- ・導入可能性があるかどうか等について検証するため、どこかのタイミングで実証実験を行い、実際どうなのかというのが目に見えて分かるようにすべきと考える。
- ・素案 58 ページの施策 5 に、那古船形駅の利活用は記載されているが、九重駅の利活用は行わないのか。

( 事務局 )

- ・九重駅については、以前存在した駅舎が解体され、簡素化されてしまったため、那古船形駅と同じように、現存駅舎を使って考えていくことは難しい。
- ・ただし、江見駅のように郵便局との合築にするということは考えられる。日本郵政のニーズもあるので一概には言えないが、日本郵政や JR の動きを注視していきたいと考えている。

( 轟座長 )

- ・47 ページの「課題」の 1 番目、一つ目のポツの文章が長く、何が書いてあるか分かりづらい。修正をお願いしたい。観光の話は分けたほうが課題が分かりやすくなる。また、基本理念の 2 番目、「支えるため」はどこにかかるのか。

(事務局)

- ・住民向けに移動手段を提供しつつ、収益面等で下支えするために観光二次交通を充実させるという趣旨だが、分かりづらいので修正を検討する。

(轟座長)

- ・分かりやすくなるよう、修正を検討されたい。

(真田委員)

- ・素案 64 ページ、グリーンスローモビリティは窓がない車両である。風水害等の際の対応はどのように考えているか。

(事務局)

- ・ビニールのカバーが設置されており、ビニールカバーを下ろすことで対策できると聞いているが、今回の台風のような事態に耐えうるかどうかは把握していない。

(真田委員)

- ・素案 60 ページの「白浜千倉館山線の見直し」について、九重バイパス供用開始にあわせて九重駅周辺の経路見直しとあるが、バイパス完成後は駅周辺の住宅地を避けた形になるのか、住宅地や JR 利用者の利便性を図るという観点からは、九重駅に入らないというのは疑問だが、どうか。

(事務局)

- ・利用者のニーズを踏まえ、事業者等と協議しながら検討していく。

(池田委員)

- ・素案 64 ページの施策 10 について、重要な施策であるとの説明を受けた。書いてあることはその通りであると思う。グリーンスローモビリティは最終段階で、直近はそこまでは辿り着かないから、第一段階としてシニアカーや電動アシスト三輪車を導入するというのも理解する。スケジュールについては、2020、2021 年の 2 年で協議検討を行い、2022、2023 年に実証実験、協議がととのえば 2024 年に本格運行開始ということだが、実現可能性ははっきりしないものの段階としてはそれで良いのか。

- ・各運行イメージについて、素案に記載されている神戸から那古まで全て対象として考えているのか、まだはっきりしないのか。

- ・西岬、神戸での自家用有償運送について、順番としてどうなのか、既に計画しているのか、自家用有償運送はハードルが高いと思うが、自治体が地域の人たちの手助けをして、意欲のある人・地区に対しサービスを進めていくという考えなのか。

(事務局)

- ・素案 65 ページの下部に事業ごとのスケジュールを示したが、2020、2021 年の「協議検討」の中で、シニアカーや電動アシスト三輪車を用い、どのような活用方法が良いかなどを住民や地域で考えていただく。

- ・その後、2022 年度から、グリーンスローモビリティ等を用いた実証モデル事業を展開していきたいと考えている。

- ・運行、運営については、素案 65 ページの実施主体欄をご覧いただきたい。市が補助事業などを実施し、車両を導入する。そして、地域の方に使ってもらうということを考えている。使ってもらう際に、自家用有償運送等を検討してい

くが、自家用有償運送はハードルが高いため、許認可に向けた手続き等を行政が進めていくことになると思う。実際には、行政や交通事業者が連携し、地域の中で自家用有償運送を行っていく方法と、地域の団体やNPOが自家用有償運送を実施する方法とがあると考えている。

( 轟座長 )

- ・まだ確定していない部分もあり、今後検討し、地域ごとに進めていくということだと思うが、地域についてもどこにどのようなものを、という点についても今後検討していくということか。

( 事務局 )

- ・その通りである。
- ・素案 64 ページに記載してあるような地区で始めていくことを考えている。書かれていない豊房地区等については、別の施策で対応することを考えている。

( 川俣委員 ( 代理 : 池田主査 ) )

- ・素案の目次 2 番、館山市の地域特性に地勢や地形等が記載されているが、都市計画の資料を加えた方が良いと考える。まちづくりとの連携という部分についても、素案 3 ページに記載の都市マスタープランで触れられているが、この内容とリンクする形で交通の計画があるため、言葉だけでなく図面を示したほうがわかりやすいのではないか。

( 事務局 )

- ・検討する。

( 轟座長 )

- ・表紙に、計画のキャッチコピーを付けられないか。ご検討願いたい。

## その他

委員から以下のとおり情報提供があった。

### ○竜崎委員 ( ジェイアールバス関東館山支店 )

- ・11月23日に、イオンタウン館山でJRバス関東、館山日東バス、日東交通、館山警察署と連携し、バスの展示を実施した。JRバス関東においては、東京と関西を結ぶ2階建てバスの展示や乗務員の安全運転教室を開催した。館山日東バスにおいては、子どもたちにバスの乗り方教室を実施していただいた。当日は雨でなかなか人が集まらなかったという面もあるが、小学生の頃からバスになじんでもらうという趣旨で、昨年度に続き2回目の開催となった。
- ・もう一つ、ジェイアールバス関東運行路線の沿線3小学校(館山、西岬、房南小学校)の1、2年生に「はたらくじどうしゃ」をテーマに絵を描いてもらい、その表彰式をあわせて実施した。
- ・昨年と違った点としては、台風被害の復旧復興に来ていた自衛隊の車両を描いた作品も見られたこと。
- ・小さな頃からバスや乗り物に親しんでもらうということで「Kid'sフェス」として開催し、子どもたちや家族に楽しんでもらえた。
- ・今後も継続して開催していきたいと考えている。
- ・西岬地区の小沼から西岬小学校方面へ抜ける切通し(市道)については、台風15号の影響による通行止めは11月11日に解除されたものの、倒木や山肌がそのま

まとなっており、大型バスを通すことは安全上問題があると考えている。そのため、今のところは伊戸漁港又は南房パラダイスでの折り返し運行とさせていただいている。小沼地区等の皆様にはご迷惑をおかけしているが、ご理解いただきたい。

- ・9月17日から10月27日まで、災害ボランティアの輸送支援ということで、房総なのはな号及び新宿なのはな号の復路運賃を無料にする措置を実施した。のべ350名の利用があり、ボランティア受入を休止した日等を考慮すると、1日平均10名程度のボランティアにご利用いただいた。バス事業者としても支援できたと考えている。

#### ○平野副会長（館山日東バス）

- ・竜崎委員からも話があったが、初めてJRバスと共同でバスフェスタを開催した。当日は乗り方教室を2回開催。20名程度の親子に参加していただいた。子どもたちからは路線バスに接する機会が無いという声も聞かれ、今回のイベントが路線バスに乗る一つのきっかけになったと考えている。
- ・JRバスとも継続して開催したいという話になっている。
- ・乗客数が減少する中、乗務員の確保も厳しくなっている。求人を出しても集まらず、苦勞している。当社では60歳代の乗務員も活躍しており、養成制度ということで、大型2種免許取得支援も実施している。先日も61歳の方から応募があり、2種免許取得支援制度を活用して資格取得にチャレンジしている状況。運転手に興味のある方が周囲にいれば、是非ご紹介いただきたい。

#### 【事務局から】

- ・会議要旨についてはまとめ次第送付する。
- ・次回会議は2月上旬開催を予定している。

閉会